

事務事業名		人間国宝田村耕一陶芸館運営事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり				担当	担当部	産業文化部	担当課	商工課	
	政策	2 住みやすい快適なまちづくり				組織	担当係	商工振興係	担当課長名	木村 晴一	
	施策	2 まちなかの活性化と公共交通網の整備				新規事業・継続事業			継続事業		
	基本事業	1 計画的な中心市街地活性化の推進				実施計画事業・一般事業			実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	10766	一般	7	1	5	人間国宝田村耕一陶芸館運営事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H16年度～ 年度			根拠法令	佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例 佐野市人間国宝田村耕一陶芸館条例施行規則				
						事業区分	市単独事業・国県補助事業			市単独事業	
						任意の事業・義務的の事業	任意の事業			任意の事業	
					実施方法	直営			直営		
					事業分類	講座・教室・イベント等開催事業			該当		
					リーディングプロジェクト	3-1			3-1		
					市長マニフェスト						

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)

事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)	平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)					
・人間国宝田村耕一の陶芸作品を展示するとともに、佐野市の観光情報の収集・提供を行うことで中心市街地の活性化に寄与することを目的として平成16年11月に開館 ・年3～4回の企画展を開催し、田村作品の展示・紹介を行っている。 ・陶芸館の入館は無料で、休館日は12月30日から1月1日である。 ・陶芸館の円滑な運営を行うため、学識経験者、関係機関及び市職員を構成員とする佐野市人間国宝田村耕一陶芸館運営委員会を組織している。 ・平成22年11月からはまちなか活性ビル「佐野未来館」の総合受付も兼ね、平成23年6月からは「まちなか駅」「赤ちゃんの駅」として観光情報を提供するなど中心市街地への回遊率の向上を図っている。	・企画展を「小品の粋 田村耕一の小さな世界展」、「佐野市制10周年・開館10周年記念 佐野市所蔵名品展」、「茶陶への挑戦 田村耕一茶壺展」と計3回開催し、作品の展示及び紹介を行った。 ・各種観光パンフレットを活用し、必要に応じ、市内及び近隣の観光情報を提供した。					
活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
企画展開催回数	回	3	3	3	3	3
観光パンフレットの配布数	枚	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000

② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)

①入館者(市民、観光客) ②人間国宝田村耕一陶芸館	対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	入館者数(陶芸館総数)	人	5,773	5,133	6,000	6,000	6,000
	入館者数(うち観光客数)	人	1,832	2,288	2,400	2,400	2,400
	入館者数(まちなか駅、赤ちゃんの駅)	人	2,206	2,358	2,200	2,200	2,200

③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)

①人間国宝田村耕一氏とその作品に対する理解を深めてもらう。 ②人間国宝田村耕一氏の業績や作品の芸術性が分かりやすく紹介されている。 静かな感動と癒しの場が提供されている。 必要とされる中心市街地や本市の観光情報が提供されている。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	1日あたりの入館者数(入館者数/開館日数)	人	16.5	15.9	17.0	17.0	17.0
	1日あたりの入館者数(まちなか駅・赤ちゃんの駅を含めた入館者数/開館日数)	人	22.2	20.7	22.7	22.7	22.7

④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)

魅力的な賑わいのある中心市街地となっている。	上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
	イベントの参加人数	人	184,383	99,623	214,000	225,000	236,000

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円	65	5,124	326					
	一般財源	千円	7,195	6,998	8,078					
	事業費計(A)	千円	7,260	12,122	8,404	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			報酬	5,383	報酬	5,383	報酬	5,383		
			共済費	859	共済費	872	共済費	947		
			報償費	120	報償費	160	報償費	160		
			需用費	264	需用費	810	需用費	864		
			役務費	529	役務費	517	役務費	642		
			委託料	60	委託料	4,304	委託料	292		
使用料及び賃借料			41	使用料及び賃借料	41	使用料及び賃借料	111			
負担金、補助及び交付金			5	備品購入費	30	負担金、補助及び交付金	5			
負担金、補助及び交付金				負担金、補助及び交付金	5					
人件費	人	1	1	1	1	1				
のべ業務時間	時間	1,415	1,400	1,400						
人件費計(B)	千円	5,506	5,517	5,517	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	12,766	17,639	13,921	0	0				

B表(事後評価シート)

事務事業名	人間国宝田村耕一陶芸館運営事業	担当部	産業文化部	担当課	商工課	担当係	商工振興係
-------	-----------------	-----	-------	-----	-----	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成16年度(平成16年11月3日開館)、本市の観光資源を広く紹介するとともに、中心市街地ににぎわいと活力の創出を図り、地域の活性化に寄与することを目的に街なかになぎわい創出事業として設置された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	マスコミ等にも知られるようになり、取材等の問い合わせが増えている。 平成22年11月3日に陶芸館が入るビルがまちなか活性化ビル「佐野未来館」としてオープンし、ビル2階の市民ギャラリー、3階のチャレンジショップの事業が開始され、また、まちなかのイベント等も開催されるようになったことから、陶芸館の入館者数も増加している。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	市政モニターより、平成23年2月に「陶芸館を日本を代表する作家や世界的レベルの作家の作品を展示する多目的美術館化してはどうか」、平成23年3月に「陶芸館を市内外にアピールするため作品の解説等ができる学芸員を置くべきだ」との意見があった。陶芸館運営委員からはかねてより、企画展の企画や解説等ができる学芸員を配置すべきとの意見をいただいている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	イベントや新聞等マスコミを通じたPR、ネットを利用した情報提供等を強化した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 この事業には、来館者に人間国宝田村耕一氏の業績や作品の芸術性を理解してもらうこと、まちなかの活性化の拠点として観光情報等を提供するという二つの目的があるため、この事業を推進することは魅力的な賑わいのある中心市街地を創出することに貢献するものである。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
委ねている	理由・改善案 当館は、市の重要課題である中心市街地活性化の拠点として設置されたものであり、田村耕一氏の貴重な寄贈品や寄託品の有効活用を図るとともに、観光情報の提供を充実させるために市が行うことは妥当なものである。	
③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？		
妥当である	理由・改善案 当館は博物館法に定める施設ではなく、前述した二つの目的を持つ施設であるため、現状では対象・意図ともに妥当なものである。	
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 広報紙、マスコミ、インターネット、専門情報誌等を通じて積極的にPRを行い、関係機関にポスターの掲示やパンフレット配布の協力を依頼するなどして、入館者増を図る。また、平成22年1月に陶芸館が入るビルがまちなか活性化ビルとしてオープンしたことから、ビル2階の市民ギャラリーや3階のチャレンジショップとも連携し、まちなか(ビル周辺)でのイベントも開催することで入館者増を図る。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名	
*類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	削減の余地はない	理由・改善案 事業運営に必要な不可欠な事業費を計上しており、現状での削減は困難である。 平成22年度より、専属(常駐)の正規職員が配置されていない(臨時嘱託員3名:物件費)。開設の趣旨を達成するための事業運営の確保、また、貴重な収蔵品の適正管理を図るためには、専属(常駐)の正規職員(学芸員が望ましい)の配置が不可欠であり、削減は困難である。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 現在、条例の定めにより入館料は無料となっているが、有料化することにより、入館者の減が懸念され、本来の目的達成が困難となることが予想されるため、受益者負担の適正化の余地はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	中心市街地及び地域の活性化の拠点を失うこととなるので廃止することは困難である。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																				
事業のやり方改善(成果向上の見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) ①マスコミ、専門誌等を通じたPR、インターネットを利用した情報提供等を強化する。 ②まちなか(ビル周辺)でのイベント、ビル2階(市民ギャラリー)や3階(チャレンジショップ)との連携を図る。 ③専属の正規職員(学芸員が望ましい)を配置することにより、より魅力的な企画展の企画・開催が可能となり、作品の解説等もできるようになることで、来館者のニーズに応えられる施設となり、入館者増が期待できる。	廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>①②</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上		①②	③	維持			×	低下		×	×	ビル改修工事による約6ヵ月間の休館に伴い、平成22年度より専属(常駐)の正規職員の配置が無くなり、開設の趣旨を達成するための事業運営の確保が難しくなっており、美術的価値の高い作品を所蔵・展示している施設としての管理体制も不十分である。まちなか活性化事業の一環として設置され、商工課所管で管理運営しているが、貴重な観光資源を生かし、より魅力ある施設に発展させるため、正規職員(学芸員)の配置が不可欠であり、また、所管部局についても検討し、見直す必要がある。
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上		①②	③																			
維持			×																			
低下		×	×																			